

授業科目名	動物臨床看護学実習Ⅰ	科目コード	261035		
開講クラス	動物看護師学科	コース	動物看護師コース	学 年	2年
担当教員	若杉和歌子				
	実務経験教員 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ) 実務経験内容 動物病院にて10年間動物の診療補助、看護に従事				
開講時期	前期・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期・通年・特別講義・その他		授業コマ数	45時間	
	<input checked="" type="checkbox"/> 必須 ・ 選 択 ・ 選択必須		単 位 数	1単位	
使 用 テキスト1	書 名	動物看護実習テキスト			
	著 者	動物看護師養成専修学校教科書作成委員会			
	出版社	株式会社 インターズー			
使 用 テキスト2	書 名				
	著 者				
	出版社				
参考図書					
授業形態	講義 ・ 演習 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 実習 ・ 実験 ・ その他 ( )				
<p>&lt;授業の目的・目標&gt; 動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。</p>					
<p>&lt;授業の概要・授業方針&gt; 動物看護過程の実践を行う。様々な事例を通じて、動物看護の思考過程を身につける。動物看護計画や動物看護記録を作成できるようになる。</p>					
<p>&lt;成績基準・評価基準&gt; 別紙参照</p>					
<p>&lt;使用問題集・注意事項&gt;</p>					
<p>&lt;授業時間外に必要な学修内容、関連科目、他&gt;</p>					

授業科目名		動物臨床看護学実習Ⅰ
3H/回	授 業 内 容	備 考
1	実習スケジュールの説明	
2	動物看護過程の復習	
3	動物看護過程の実践（事例①）	
4	↓	
5	動物看護過程の実践（事例②）	
6	↓	
7	動物看護過程の実践（事例③）	
8	↓	
9	動物看護過程の実践（事例④）	
10	↓	
11	動物看護過程の実践（事例⑤）	
12	↓	
13	動物看護過程の実践（事例⑥）	
14	↓	
15	まとめ	

別紙「動物臨床看護学実習Ⅰ」学習成果指標

評価要素項目		実習目標	学習成果評価基準				
			4	3	2	1	
汎用的技能	自己評価の内容	実習を振り返り、身だしなみ、実習目標の達成、実習内容の理解、積極的な取り組みなどについて、客観的な自己評価を行っている。	自己評価が客観的で正しく行われており、担当教員による評価と相違ない。	自己評価は正しく行われているが、担当教員による評価とやや相違がある。	自己評価がやや主観的である。	実習後の自己評価はいつも同じで、担当教員による評価と大きく離れている。	
職務上の技能	専門実践技能	実技試験60点	学期末に行う実技試験において、手順や器具の扱い方が実習で指導した通りに行われており、設定時間内に終了できる。	実技試験48点以上	実技試験42～47点	実技試験36～41点	実技試験35点以下
	対人技能	実習中の態度、身だしなみ	実習中は教員の指導を素直に聞き、実践できる。教員や他の学生に対する言葉遣いも適切で、実習にふさわしい身だしなみができている。	実習中に指導されたことは素直に実践し、態度・言動が適切である。常に実習にふさわしい身だしなみができている。	指導されたことは素直に実践している。	教員の指示どおりに行わない面があり、言動面も指導を要する。	教員の指導を素直に聞かず、反抗的な態度をとることがある。また、実習着を忘れたり、身だしなみも不適切である。
	分析技能	レポートの提出状況、内容	実習後のレポートに、実践した内容だけでなく反省や改善点、問題点がわかりやすくまとめられている。また、期限に遅れることなく提出できる。	実習で実践した内容が細かく丁寧にまとめられており、今後の自分の課題が分析されたレポートである。毎回、遅れることなく提出している。	レポートは提出されているが、内容や今後の課題がやや不明瞭である。	期限に遅れることが多いが、提出はされている。	レポートをほとんど提出しない。
	管理・指導技能	積極性	様々なことに興味を持ち、意欲的、積極的に実習に取り組んでいる。また、わからない学生にも優しく教えることができる。	積極的に実習に取り組み、疑問に思ったことはすぐに質問解決につなげることができている。また、他の学生にも優しく教えることができる。	真面目に取り組んではいるが、積極的に動けない面がある。学生同士で教える際は、丁寧に説明できている。	やや受け身の態度で実習に取り組んでいる。他の学生への説明もやや不足している。	実習中は常に受け身で、自分から実践しようとしにくい。うまくできないことがあっても、自ら練習しようとしにくい。
自律性と責任感	責任感、行動力	動物看護師になることを目標として、責任感をもって実習に取り組み、どのように自己研鑽に取り組むかを明確にしている。	言われたことは最後まで責任を持ってやり遂げ、動物看護師になることを目標として、自己の成長を意識しながら、自分で考え行動できている。	動物看護師になることを目標として、自分で考えて行動しようとする姿勢は見られる。	動物看護師になることを目標とはしているが、自分の考えで行動できないことがある。	自己の職業観が曖昧なため、責任感や自律性に欠けた行動が頻繁にみられる。	
倫理観とプロ意識	職業倫理の理解	職業人としての社会的なマナーや言動を意識しながら行動できる。	動物看護の倫理綱領を意識しながら、実習における目的・目標を念頭に、社会的・職業的倫理に対して関心を持って取り組んでいる。	一般的な社会的・職業的倫理は理解できている。	社会人になるという意識はあるが、社会的・職業的倫理に対する関心が低い。やや理解不足である。	社会人になるという意識が低く、社会的・職業的倫理に対する関心が低い。	

※評価方法

上記7項目の基準の合計点数により、以下のように評価する。

合計28点満点中 23～28点が優、20～22点が良、17～19点が可、16点以下が不可

不可の場合は、著しく評価が低い項目に合わせた課題を与え、提出されたその内容が適切な場合は可の評価を与える。